（仮称）新百合ヶ丘MaaSコンソーシアム（新百合ヶ丘）

国土交通省 スマートシティモデル事業 重点事業化促進プロジェクト

〇大都市圏の郊外住宅地である新百合ヶ丘駅周辺地区にMaaSを実装することで居住者等の生活利便性を高めるとともに、横浜市高速鉄道3号線延伸を見据えた次世代型鉄道沿線まちづくりを目指し、MaaSアプリから得られるデータ等の活用を図る。

■ 対象区域のビジョン

〇身近な生活行動圏別の沿線まちづくり
〇コンパクトで効率的なまちの実現

■ 対象区域の課題

〇将来の一斉高齢化を見据えた生活利便性の維持・向上

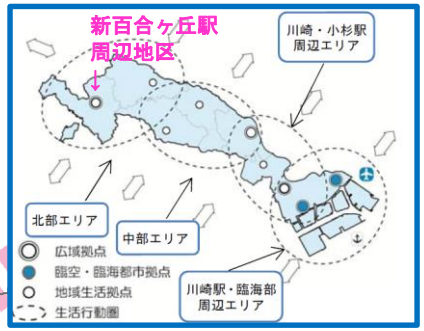
〇新百合ヶ丘駅と周辺住宅地とのアクセス性の改善

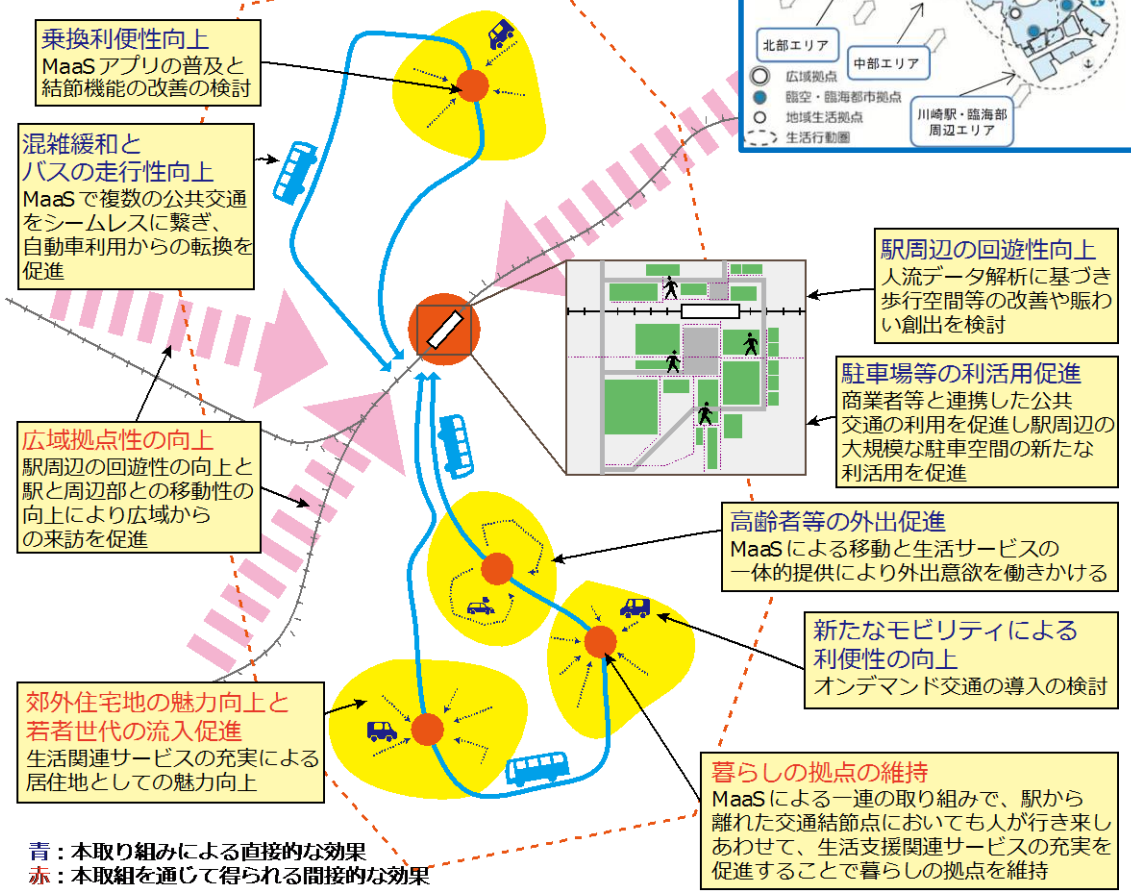
■ モデル事業の取組み内容

戦略1：モビリティの強化と生活関連サービスとの連携
（MaaS、オンデマンド交通等）

戦略2：人流等のビッグデータを活用したまちづくり
（MaaSアプリを通じて得られる人流ビッグデータを活用したスマート・プラニング）

新百合ケ丘駅を中心に移動と生活サービス等が一体化された身近な生活圏を形成[イメージ図]





青：本取り組みによる直接的な効果
赤：本取組を通じて得られる間接的な効果

※上記はイメージであり、具体の取組内容として確定したものではありません。

（仮称）新百合ヶ丘MaaSコンソーシアム（新百合ヶ丘）

■ データ利活用方針

〇MaaSアプリ等から得られるデータを蓄積し、まちづくりやサービスの効率化、高度化の検討に活用

データ利活用のイメージ

収集	MaaSアプリ、データ基盤、オンデマンド交通運用システム等の様々な方法でデータを収集
整備	収集したデータは、検索履歴データ、活動移動の実態データ、運行実績データ等として集約
活用	混雑予測・情報提供、歩行回遊性の検討、需要に応じた交通サービスの検討などに活用

■ 運営体制

〇新百合ヶ丘駅周辺地区におけるMaaSの実装を目的とした「（仮称）新百合ヶ丘MaaSコンソーシアム」の設立を検討

（仮称）新百合ヶ丘MaaSコンソーシアム

構成員（想定）：

・小田急電鉄　・川崎市

・交通事業者　・商業施設　など

■ スケジュール

〇MaaS実証実験は今年度実施

〇スマートシティの取り組みは時期未定

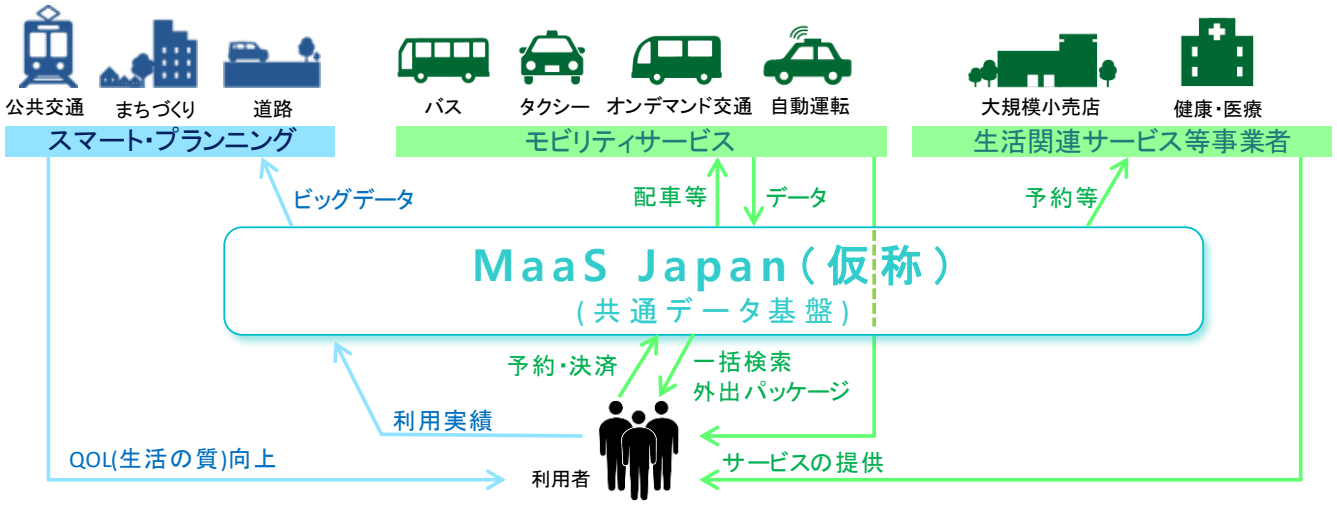
データ共通基盤・アプリ開発 → MaaS実証実験 → 効果分析 → 実験の成果と今後の課題のまとめ → スマートシティの取り組みへ発展を目指す

（仮称）新百合ヶ丘MaaSコンソーシアム（新百合ヶ丘）

■ MaaSとスマートシティの関係

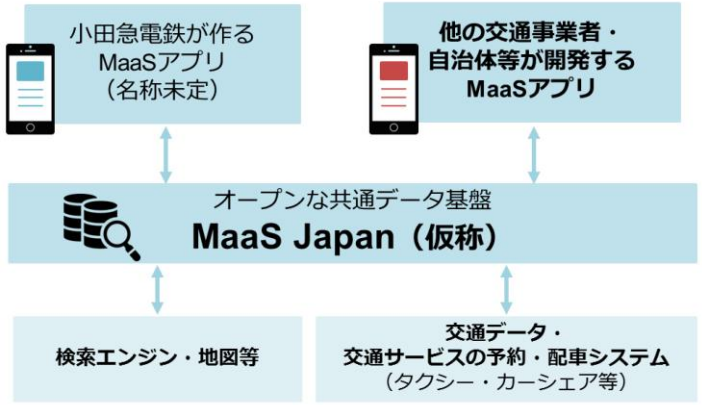
○交通データや生活関連サービス等のデータをMaaS Japan（仮称）に蓄積することで、利用者は検索、予約、決済を一体的に実施できるようになる

○アプリを通じて得られる利用実績データも共通データ基盤に蓄積され、スマート・プランニングに活用する



■ 共通データ基盤【MaaS Japan（仮称）】の特徴

○「MaaS Japan（仮称）」は、小田急電鉄（株）と（株）ヴァル研究所が共同開発するオープンな共通データ基盤である。

○全国のMaaSアプリ運営関係者等が所定の契約手続きの上で利用できるオープンなデータ基盤として整備する。

○収集したデータについても、提供者・権利者の同意の下で、連携して分析・利活用できる形態とする。